

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2010.9.14 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認された3類感染症である腸管出血性大腸菌は、2010年9月14日現在で86株です。感染者の内訳で見ると下痢腹痛などの症状を呈した有症状者から分離されたのが59株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が27株でした。発症日で見たと月別の分離数では、1月から5月までは月当たり5株前後でしたが、6月に20株、7月に18株、8月に31株と分離株数が増加しています。分離されている血清型を表に示しましたが、O血清型ではO157が66株と最も多く、次いでO121が10株分離されています。また、OH血清型と毒素型で見ると157:H7(VT1&2)が45株と最も多く、次いで157:H7(VT2)が15株、121:H19(VT2)が10株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2010.9.14 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	45
O157:H7	VT2	15
O157:H7	VT1	1
O157:H -	VT1&2	5
O26:H11	VT1&2	1
O26:H11	VT1	5
O91:H -	VT1	1
O121:H19	VT2	10
O145:H -	VT2	1
O146:H21	VT1	1
O165:H -	VT2	1
合計		86

衛生研究所では、PFGE法を用いたDNA切断パターンによる型別を行っています。9月14日現在、O157:H7 61株中56株の型別が終了し、26パターンに分けられています。3つのパターンで5株以上の集積が認められましたが、汚染源の究明までには至っていません。散発症例の集積がみられる場合、個々の事例の詳細な喫食状況の調査が迅速に行われることが肝要です。今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。